

産学連携コーディネーター 優良事例

【NPO法人 東海地域生物系先端技術研究会支援】

◆夏秋果菜類の土壌病害を回避する新たな超低コスト栽培システムの開発 (2010～2012年度)

共同研究機関：岐阜県中山間農業研究所、国立大学法人岐阜大学応用生物科学部、揖斐川工業株式会社、岐阜県(農政部農業技術課技術支援担当)

研究概要: 夏秋トマト・ナスの主要な産地では、土壌病害による連作障害や、中山間地域で農地が限られ不良なほ場での栽培による農家間の収量格差等の問題があり、生産の高位標準化が求められている。

本研究では、これまでにない超低コストで軽作業化を図った根域を隔離した新たな栽培システムとマニュアルを開発し、土壌病害の発生、伝搬を防ぎ、不良なほ場においても経年栽培を可能として、夏秋果菜類の生産安定を図る。

新技術の内容は、1) 培地水分安定の給排水管理方式、2) 基肥主体の省力的施肥技術、3) 低コスト軽量培地、4) 培地の理化学分析による多年使用法、5) 袋培地の土壌消毒と微生物特性の検証、6) 低コスト隔離培地槽などであり、これらの目標達成により、限られた耕地の中山間地域において夏秋果菜類の飛躍的な生産安定が期待される。



課題提案者の感想：産学官連携コーディネーターの支援に対して



岐阜県中山間
農業研究所
中津川支所
越川部長

課題提案に当たっては、東海地域生物系先端技術研究会のコーディネーターより、現場ニーズに即した技術開発テーマなので、その成果が地域に貢献する姿が目に見えるようにとの的確な助言を受け、研究内容を共同研究者とともに深化させることができた。

コーディネーターには、課題検討の段階から、申請書作成、ブラッシュアップ、二次ヒアリング対策まで、懇切なる支援をいただき採択に至ったことに深く感謝している。